

## 『24時間（1日の歩み）』

聖書本文：ヨハネの福音書20：30-31

説教者：全海石牧師(アデレード日本人教会)

わたしは今日ある一人の青年の話をしてします。

彼は2000年前にイエス様に出会ったことがあります。

そのイエス様が彼にどれほどの影響を与えたか、またその経験を通して、今を生きる私たちに与えるチャレンジは何なのかについてお話したいと思います。

彼は「雷の子」というあだ名を持っていました。

彼は若い時とても積極的で、活動的でした。

外国人からみた韓国人の気質についてこんな資料があります。

韓国人はせっかちで、感情の移り変わりが激しく、順応性がある。

多分彼の性格と韓国人の性格は似ていたのかもしれませんが。

彼はイスラエル人としてローマの支配下に置かれながら、

イスラエルの解放を待ち望んでいた一人でした。

また旧約聖書が約束しているメシヤ的なリーダーを待ち望んでいました。

そのリーダーが現れたら、その人にすべてをささげ、イスラエルの独立と解放のために

若さをささげようと思う、革命の夢を持っていました。

当時イスラエルの全土にはおかしな噂が流れていました。

それはある人が奇跡や癒し、

神のみことばによってイスラエル人に希望を与えているというものでした。

ある時、偶然にも彼の前にその人、イエス・キリストが現れました。（ルカ5：1-11）

その青年は今日読んだヨハネの福音書を書いたイエスの愛された弟子、ゼベダイの子ヨハネです。

弟子たちは皆そうでしたが、彼も欲望と期待を持っていました。

だからしばしばイエス様の弟子たちは言い争いをしたようです。

その日が来て、弟子たちがより高い地位に就くために夢中になっていました。特にヨハネは自分の欲望を隠しませんでした。

### 第一に、ヨハネはイエス様に従いつつも自分以外の人が注目されることに

<sup>びんかん</sup>  
敏感だった人でした。

ヨハネがイエスに言った。「先生。先生の名を唱えて悪霊を追い出している者を見ましたが、

私たちの仲間ではないので、やめさせました。」マルコ9：38

### 第二に、ヨハネは冷たく<sup>きよくたん</sup> 極端<sup>せいかく</sup>な性格を持っていた人でした。

さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリヤ人の町にはいり、イエスのために準備した。

しかし、イエスは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリヤ人はイエスを受け入れなかった。弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

しかし、イエスは振り向いて、彼らを戒められた。そして一行は別の村に行った。（ルカ9：51-56）

第三に、ヨハネは自分の欲望のためには手段を選ばなかった人でした。イエス様がエルサレムに入られた時、これから祭司長や律法学者たちに引き渡され、死刑にされることを預言されました。そして異邦人に渡され、<sup>はずかし</sup>辱められ、<sup>むちう</sup>鞭打たれ、十字架にくぎ打たれて死に、3日目によみがえることを預言されました。（マタイ20：17-20）

これを伝えられると、一番初めに行動をおこした女性がいました。それはゼベダイの子の母親でした。この女性は二人の息子をつれ、イエス様にあるお願いをする場面が聖書に書かれています。（聖書に出てくる最強の母親）

そのとき、ゼベダイの子たちの母が、子どもたちといっしょにイエスのもとに来て、ひれ伏して、お願いがあり

ますと言った。イエスが彼女に、「どんな願いですか。」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるようにおことばを下さい。」

(もしかしたら十字架の両側にいるべき人達) (マタイ 20 : 20-1)

この言葉を聞いたほかの弟子たちは怒ったと聖書にかかれてあります。

このことを聞いたほかの十人は、このふたりの兄弟のことで腹を立てた。(マタイ 20 : 24)

**第四に、ヨハネはしてはいけない事をした人でした。** みなさん。イエス様が十字架にかかられた後、決してエルサレムを離れてはいけないなかった弟子を一人あげるとすれば、誰を選ばれますか?ペテロですか?

ヨハネの福音書の中で、自分の事を書く時、ヨハネは「イエスの愛された弟子」という表現で自分の事を表しています。(ヨハネ 13 : 23、ヨハネ 19 : 26、ヨハネ 21 : 20)

イエス様は十字架で死なれる直前、このヨハネに最後のお願いをしました。何のお願いか覚えておられますか?兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の 姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。(ヨハネ 19 : 25-27) こんなお願いをされたヨハネはどうしたと思いますか?ヨハネ 21 : 9を見ると、おかしなことが書かれています。「この後」ヨハネ 21 : 1-3 を読んでみましょう。

(ヨハネ 21 章はわかりやすく言うと思いい出の中のもう一つの思い出)

(ソウルからクンサンという海辺に行き、魚を捕まえていたヨハネをイエス様が探され、再会された：ヨハネだけ行ったのでしょうか。

もしくは、イエス様の母マリヤも一緒だったのでしょうか。私の考えは) このヨハネが書いたイエス様の伝記がヨハネの福音書です。ヨハネはイエス様の事を書く時、革命家や欲望を持った姿で書くことはなく、謙遜な愛の使徒としてイエス様の事を思い出し、イエス様の事を伝えています。

ヨハネはイエス様との人格的な出会いを経験し、イエス様を恋い慕っていた人でした。ヨハネにとって、計り知れないほど素晴らしいイエス様との出会いがありました。それを今日の本文が説明しています。

すこしヨハネの福音書は奇妙です。全体の内容の 33%が 24 時間 (1 日) を説明するのにさかれています。これは、ヨハネにとってこの 1 日がとても意味ある時間だったことを表しています。

ヨハネ 13-19 章その一日とは、イエス様が十字架につかれる前夜から十字架で死なれるまでの 24 時間です。ヨハネにとって、イエス様の生涯で一番思い出深く、みんなに伝えたいことがまさにこの 24 時間の事でした。自分の人生に大きな影響を与えたこの 24 時間の始まりを、ヨハネはこう書いています。

さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを 知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。(ヨハネ 13 : 1) 「世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された」という言葉に他の誰よりも感動していたのは、ヨハネだったことと思います。それはこの言葉は自分の事だったからです。他の弟子たちのようにヨハネもイエス様を捨て、逃げ出した人でした。

失敗し、挫折し、逃げ出した人のうちの一人でした。

しかしイエス様はこのヨハネにも十字架と復活を見せられ、もう一度イエス様の方から探し、会いに来てくださいました。ヨハネは自分がイエス様に特別に愛されていた弟子であったと、自分で書いています。

弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。(ヨハネ 13:23)

ここにはヨハネの2つの意図が隠されていると思います。第一に、後悔です。自分の裏切りと欲望を知りながらも、最後まで愛してくれたイエス様への恋しさと悔恨の念を表しています。

第二に、感動です。こんな自分さえも無条件に愛してくださったイエス様に対する感謝の告白です。ヨハネはイエス様の十字架で、自分とイエス様を信じる人達に与えられている祝福をこう書き表しました。わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、<sup>ゆうかん</sup>勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。ヨハネ 16:33

ヨハネはヨハネの福音書のほかにもヨハネの手紙1, 2, 3そしてヨハネの黙示録を書いた偉大なイエス様の弟子でした。イエス様の弟子の中で一番長生きし、最後まで神様のことばを証しました。ヨハネは多くの教会と信仰を持つ人たちにあてて、こういいました。

世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。(Iヨハネ 2:15-17)

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。(Iヨハネ 4:7-8) 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちがまた互いに愛し合うべきです。(Iヨハネ 4:10-11) 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。(Iヨハネ 4:21) ヨハネは結論として今日の本文を書きしるし、自分が書いたイエス様の福音の意図と目的を明らかにしました。

イエス・キリストに出会ってください。信じてください。イエス様によって永遠の勝利といのちが私たちに与えられます。私とその証人です。私のような者もイエス様は見捨てることなく、愛していただきました、と告白しています。私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。(Iヨハネ 5:13)

皆さんの出会われたイエス様はどのようなお方ですか？皆さんの人生におけるイエス様との時間はどんな時でしたか？イエス様と共に歩むことで皆さんはどんなことが変えられましたか？今の私たちは、もしかしたらイエス様と人格的に会う前の生活をしているかもしれません。ある人は、イエス様の奇跡に、ある人は癒しと力に、ある人は十字架の下に、ある人は復活の前にいるかもしれません。私たちやヨハネに下されたように、イエス様はこれからともに歩んでくださいます。またヨハネの福音書のような、各自イエス様を告白し、その信仰を生き方に表わしていくことを、神様は私たちに期待しておられます。私たちが信じるイエス・キリストのうちにある信仰は出会いです。イエス・キリストとの出会いは変化です。

変化は神様とともに歩むことです。これは私たちに下された出会いの祝福です。福音の力です。